

図書館での英語活動プログラム —教育格差対策としての 子ども英語図書館の可能性を探る—

東京都 英語教育研究会
代表 カレイラ 松崎 順子

韓国政府は所得による格差から生まれる英語力の格差をなくすために、様々な対策を行ってきた。そのような対策の一つが子ども英語図書館である。韓国の子ども英語図書館は英語の図書を提供するだけでなく、キャンプや英語プログラムなどを無料または廉価で提供している。日本でも近年教育格差が問題になっているが、特に、教科化されたばかりの小学校の英語の教育格差は広がっていると思われる。ゆえに、本研究では韓国のような英語図書館の設立の可能性を探るため、大学教員・大学生が中心になって図書館での英語活動を定期的に行い、韓国のような英語プログラム、特に、CLIL（内容言語統合型学習）をベースにしたプログラムの構築・実践・評価を行った。

1. はじめに

韓国政府は所得による格差から生まれる英語力の格差をなくすために、様々な対策を行ってきた。そのような対策の一つが子ども英語図書館である。韓国の子ども英語図書館は英語の図書を提供するだけでなく、キャンプや英語プログラムなどを無料または廉価で提供している。一方、日本でも近年教育格差が問題になっており、特に、教科化されたばかりの小学校の英語の教育格差は広がっていると思われる。

ゆえに、本研究では韓国のような英語図書館の設立の可能性を探るため、大学教員・大学生が中心になって図書館での英語活動を定期的に行い、韓国のような英語プログラムを実施した。特に、本研究会では、

英語を通して、他教科の内容などを学ぶ CLIL（Content and Language Integrated Learning：内容言語統合型学習）をベースにしたプログラムの構築・実践・評価を行うことにした。

2. 本年度の活動

当初の計画では、図書館の協力を得て図書館のプログラムとして本プログラムを実施する予定であった。そのため東京近郊の図書館（国分寺市・練馬区など）に実施協力を仰いだが、「読み聞かせ以外は図書館では行えない」「図書館のプログラムはコロナ禍で行っていない」「図書館は教育施設ではないため教育的要素の強いものは行えない」などの理由でプログラムの実施が

難しかった。そのため武蔵野市にある「武蔵野プレイス」のセミナー室を有料で借りる形でプログラムを実施することにした。

しかし、英語教育研究会に武蔵野市市民がいなかったため、武蔵野市の市報に載せることや児童館・公民館にチラシを置くことが許可されず、児童の募集活動が難航した。本来は5回実施する予定であったが、第3回目のプログラムには児童が1名しか集まらなかったためキャンセルし、残りの2回は場所を変えて、会員の一人が住民である世田谷区の世田谷区立砧図書館で行うことにした。

2. 1. 第1回 英語で遊ぼう！英語×図工教室「野菜スタンプで絵を描こう」

日 時：2022年10月30日
14:00～15:00

場 所：武蔵野プレイス ルームC

対 象 者：幼児(1名)小学生(1年生4名・2年生1名・3年生1名・4年生1名・5年生3名)

参加学生：大学生6名

第1回は図工のCLILを行い、野菜スタンプで絵を描く活動を行った。最初に絵本 (*It Looked Like Split Milk*) の読み聞かせを行い、次に、野菜の言い方、色の言い方、形の言い方を英語で学び、自由に作品を作成した(詳細は表1を参照)。なお、図1が当日のプログラムの様子である。

①児童の様子

最初児童は緊張している様子が見られたが、プログラムが始まる前に学生と話しながら折り紙を作る活動を行ったため、児童の緊張がほぐれたようであった。各グループに学生が入り、英語や日本語で話しながら、作業を行ったが、高学年の子どもたち

はどんどん描きたいことが出てきたようで、1枚完成したら、2枚目に取り組み、自分の好きな動物や、空や木などを描いていた。幼稚園生や低学年の子どもたちは野菜を輪切りにしてスタンプをするということがわからず、野菜を全て筆のように使用して描いていたが、自由に想像力を使って描いていた。

表1 当日の活動の流れ

時間	活動
14:00～14:05 (5 min)	来た順番に名札を作成し、付ける。 挨拶 学生の自己紹介
14:05～14:15 (10 min)	絵本の読み聞かせ <i>It Looked Like Split Milk</i>
14:15～14:30 (15 min)	野菜スタンプの説明 (野菜の言い方、色の言い方、形の言い方、It looked like ~)
14:30～14:50 (20 min)	自由に作成する 絵にタイトルをつける
14:50～15:00 (10 min)	タイトルを言って、作品を見せ合う

②参加した児童の保護者の自由記述式の回答例

- ・とっても面白い題材でたくさんのお野菜の道具を用意してくださって、普段できない経験をさせることができました。
- ・面白いイベントに参加させていただき、ありがとうございました。図工から入ることで英語への関心も強まると思います。

③参加した学生の自由記述式の回答例

- ・お手伝いで来てくれていた他の大学生の方々の自然な英語が素晴らしかったです。子供たちがみんな喜んでくれていて、こっちも楽しかったです。また機会があればこのようなイベントに参加させていただきたいと思います。あ

りがとうございました。

- ・児童の楽しんでいる姿を見てとても嬉しい気持ちになりました。また、野菜を用いて絵を描くことによって児童の想像力が広がっていくのを感じました。児童が学年を超えて交流している姿を見てとても嬉しかったです。
- ・子供たちが野菜の英語を楽しむだけでなく、野菜の感覚（触り心地）を楽しんでいたのが印象的でした。英語を使って子どもたちに接することができて嬉しかったです。お声がけいただきありがとうございました。



図1 10月30日のプログラムの様子

2.2. 英語で遊ぼう！英語×体育「頭と体を使ってみよう」～好きな選手になったつもりで英語で一緒にサッカー体験してみませんか？～

日 時：2022年11月27日
14:00～15:00

場 所：武蔵野プレイス ルームC

対 象 者：小学生（1年生：1名・2年生：
1名・3年生：2名・4年生：
1名・5年生：1名）

参加学生：大学生7名

第2回は体育のCLILを行った。特に、サッカーを題材として扱い、数字、色、およびスポーツの名前などを学んだ後、自己紹介や練習メニューを作るという活動を行った（詳細は表2を参照）。なお、図2が当日のプログラムの様子である。

①児童の様子

出席の確認、名札の受け取り、さらに、大学生と参加者とのサッカーボールの投げ渡ししながらのアイスブレイク活動を通してお互いに少しずつ打ち解けられたようである。

②参加した児童の自由記述式の回答例

- ・サッカーボールをさわったりどうかが見れてよかった。
- ・先生のえいごのことばがむずかしかった。サッカーのどうがのシュートがかっこよかった。
- ・楽しくてわかりやすかった。

③参加した児童の保護者の自由記述式の回答例

- ・今回初英語受講で楽しそうにしていました。今、サッカーWカップで盛り上がっているのもとてもタイムリーなテーマで良かったです。先生の優しい口調の英語が聞きやすかったです。ありがとうございました。
- ・自己紹介やクイズのサッカーの動画がサッカーが好きなので興味をもって見ている様子だったので良かった。
- ・楽しいふんいきで英語にふれることができて良かったです。動画のクイズをしたりみんなで楽しく過ごしている様で良かった。自己紹介を自分でもできていて嬉しそうでした。とても充実し

ていて楽しかったです。ありがとうございました。

- ・思いがけない語彙や動作について学ぶ姿勢がみられてよかったと思いました。このような英語の学習環境ならではとも思い参加させて良かったです。ありがとうございました。

表2 当日の活動の流れ

時間	活動
14:00～14:08 (8 min)	あいさつ 出席：子どもの名前を呼び名札を配る。 先生・学生の自己紹介
14:08～14:38 (30 min)	あいさつの練習 名前を聞いて答える練習 グループ分け アルファベット、1～10までの数字、色&スポーツの名前確認 数当てゲーム どっち？ゲーム 自己紹介をしよう！
14:38～14:58 (20 min)	練習メニューを作ってみよう！
14:58～15:00 (2 min)	あいさつ



図2 11月27日のプログラムの様子

④参加した学生の自由記述式の回答例

- ・生徒が予想以上に楽しんで参加してくれたので楽しかったです。授業後の参加者のアンケートでも、私の担当した生徒の子がサッカーの動画で英語を学ぶことが面白かったと回答してくれたため、やりがいを感じました。反省点としては、当日に授業の流れを確認したため準備不足だったところが少しありました。サッカーの練習メニューを作る時に自分がバタついてしまったので、次回は事前にみんなをよく確認をして取り組みたいと思います。

2.3. 第3回 英語で遊ぼう！ Paper Plane Competition: 大学生と紙飛行機を作って遊ぼう

日 時：2022年12月17日
13:30～14:30

場 所：世田谷区立砧図書館集会室

対 象 者：小学校（1年生1名・3年生1名）

参加学生：大学生7名

第3回は紙飛行機を英語で作る活動を行った。最初に絵本（Little Cloud）の読み聞かせを行い、つぎに、紙飛行機作りのスライドを上映し、さらにスライドを見ながら英語で紙飛行機を作った。最後に作り上げた紙飛行機を飛ばし、飛行距離や飛行高度を計測した（詳細は表3を参照）。なお、図3が当日のプログラムの様子である。

①児童の様子

参加者が姉弟の2名のみだったので学生との交流に馴染むまで時間がかかった。しかし、時間が経つにつれて、姉は紙飛行機のための折り紙を選ぶこと、作ることを楽しんでいる様子だった。弟は折り紙を折ったことがないため、学生がほとんど折って

いたが、飛ばすことは楽しんでいる様子であった。全体的に英語での語りかけが難しい状況であった。

なお、児童・保護者から質問紙調査の同意を得ることができず、質問紙調査を行うことができなかった。

表3 当日の活動の流れ

時間	活動
13:30～13:45 (15min)	挨拶、絵本 (Little Cloud) 読み聞かせ、紙飛行機作りのスライド上映
13:45～14:00 (15min)	スライドを見ながら英語で紙飛行機作り
14:00～14:10 (10min)	作り上げた紙飛行機を飛ばす、飛行距離、飛行高度の計測
14:10～14:15 (5min)	参加者の飛行距離、飛行高度の発表
14:15～14:25 (10min)	もう一度紙飛行機を作る
14:25～14:30 (5min)	作り上げた紙飛行機を飛ばす、メダルを参加者に授与、解散



図3 12月17日のプログラムの様子

2. 4. 第4回 英語で遊ぼう！ Paper Plane Competition: 大学生と紙飛行機を作って遊ぼう

日 時：2023年2月18日

13:30～14:30

場 所：世田谷区立砧図書館集会室

対 象 者：幼児(1名)小学生(1年生3名・2年生1名・3年生1名・4年生1名・5年生1名)

参加学生：大学生7名

上述したように第3回目のプログラムは児童の参加人数も少なく、質問紙調査にも協力してもらえず、十分な成果を得ることができなかった。よって、第4回では同様の内容をもう一度行うことにした(詳細は表4を参照)。なお、図4が当日のプログラムの様子である。

表4 当日の活動の流れ

時間	活動
13:30～13:45 (15min)	挨拶、絵本 (Little Cloud) 読み聞かせ、紙飛行機作りのスライド上映
13:45～14:00 (15min)	グループ(1年生と幼児、その他)に分かれてスライドを見ながら英語で紙飛行機作り
14:00～14:10 (10min)	作り上げた紙飛行機を飛ばす、飛行距離、飛行高度の計測
14:10～14:15 (5min)	参加者の飛行距離、飛行高度の発表
14:15～14:25 (10min)	グループに分かれ、大きな紙飛行機を作る
14:25～14:30 (min)	作り上げた紙飛行機を飛ばす、メダルを参加者に授与、解散

①児童の様子

英語に堪能な参加者が多く、おおよそ英語での語りかけによく反応していた。1年生が参加者の半分を占めており、英語を聞きながら折ること、飛ばすことなどそれぞれの個性に応じて楽しんでいる様子だった。もう一方のグループ(2年生～5年生)は大変落ち着いており、英語のスライ

ドもよく見たり聞いたりしながら、紙飛行機を折っていた。特に、グループ（2年生～5年生）は、後半での大きな紙飛行機を折ったり、飛ばしたりするとき、残念ながら、英語ではなかったが、声を掛け合いながら協力していた。また、飛行距離や飛行高度を発表する時は、学生の発表に続いて、どの参加者も英語で大きな声で発表することができた。概ねそれぞれの年齢に応じた様々な楽しみ方で楽しんでいる様子であった。

②参加した児童の自由記述式の回答例

- ・楽しかったです。ありがとうございます。

③参加した児童の保護者の自由記述式の回答例

- ・子どもが夢中に紙飛行機を作成したり、どのように遠くまで飛ぶか検証している様子も見ることができ、こちらにも新しい発見がありました。大学生のお兄さん、お姉さんたちに優しく声かけてもらったことも安心して参加できました。

④参加した学生の自由記述式の回答例

- ・小さな子供と関わること、英語を教えること、どちらもほとんど未経験でしたので不慣れな部分もありました。しかし、今回貴重な機会をいただき、子供に英語を教える時にどのような形で進めたら良いのか、また、子供とどう接したら良いのか学ぶことができました。子供との関わりに慣れている学生と一緒にできたこともよかったです。たくさんの方の前で話すということも、このような機会がなければ練習ができないので、有り難かったです。

- ・一緒に英語を使って子どもたちと何かするということがなかったので、子どもたちと触れ合う機会にもなったし、一緒に英語を使うという貴重な体験をすることができたと思います。



図4 2月18日のプログラムの様子

3. 今後の課題

「はじめに」で上述したように、今年度は図書館のプログラムとして実施できる図書館を見つけることが難しく、さらに、児童募集においても武蔵野市の協力を得ることができなかったため、実施するまで様々な課題があった。2022年度の経験から古くからある市営・区営の図書館では韓国のような英語図書館での英語活動プログラムを行うことはかなり難しいといえるであろう。

一方で、代表が地方の図書館を調査した結果、地方で近年開館した市営の図書館の多くが運営を全面的に民間に任せており、このような図書館の多くは遊び場やカフェなどが併設されており、飲食・おしゃべりも許可されているなど、古くからある図書館よりも自由な発想で運営されている。さらに、読み聞かせ以外のイベントも積極的に行っているようなので、今後はこのような民間が運営する新しい形の図書館での英語活動プログラムの可能性を探っていく予定である。

（代表：カレイラ松崎順子）